東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１２年4月６

クルアーンを読むこと、実践すること

親愛なるムスリムの皆様

クルアーンは、崇高なるアッラーによって預言者さまに遣わされた最後の神の書です。この崇高な書物が対象としているのは全人類であり、その目的は全ての人々を現世と来世で幸福にすることです。この目的に到達することができるためには、クルアーンを読むこと、理解すること、命令と禁止事項に従うことが必要です。事実、崇高なるアッラーも「　われがあなたに下した啓典は、祝福に満ち、その印を沈思黙考するためのものであり、また思慮ある者たちへの訓戒である。』（サアド章第２９節）「本当にこのクルアーンは、正しい（道への）導きであり、また善い行いをする信者への吉報である。かれらには偉大な報奨が授けられる。」（夜の旅章第９節）「だがこれ（クルアーン）は、われが下した祝福された啓典である。だからこれに従って、あなたがたの義務を尽くしなさい。恐らくあなたは、慈悲に浴するであろう。」（家畜章第１５５節）と仰せられました。

つまりクルアーンを読むことの目的は、それを理解することであり、理解することの目的はその定めるところにしたがって行動すること、それが示す道を進むことです。トルコの国民的詩人メフメット・アキフは次のように読んでいます。「クルアーンの理解はそれを学ぶことである。なぜなら私たちはクルアーンの意味を知らない。ただ私たちはクルアーンのページを開きそれを見る　あるいは死者の土に息を吹きかけ通り過ぎる　クルアーンはそのために下されたのではない　それを正しく知りなさい　墓で読むためではない　占いのためでもない」

無尽蔵の知識、英知、そして幸福の源であるクルアーンは、その光によって世界を明るくし、魂に癒しを与え、人々が強い良心と健全な信仰を持つことを助け、理性や心を照らす崇高なる書物なのです。

だから人生の意味を理解し、よい人になるために、変化し発展していく世界の困難な状況に耐えることができるよう、クルアーンを頼り、そこから警告を得ることが必要です。全ての自我と共にこの崇高なる書物に向かい、比類なきその美を理解し、その原則を理性と心で受け止めるべきなのです。

人類がクルアーンに向かい、それを道標とした時には、最も進んだ文明を手にしていました。預言者さまはこの真実を次のように語られています。「疑いもなく、アッラーはクルアーンによって行動するものを高められる。それに従わない者を低く下げられる。そして後に残される。」「クルアーンにしっかりと結びついていなさい。それを導き者、道標としなさい。なぜならクルアーンは諸世界の主アッラーの神聖な言葉であるからである」